



第62回日本胆道学会学術集会

胆道学の未来へ 一次世代への継承、創造、そして革新—

いりさわ あつし
会長 入澤 篤志 氏 (獨協医科大学医学部内科学〔消化器〕講座 主任教授)

第62回日本胆道学会学術集会が10月16日(金)・17日(土)の2日間、栃木県宇都宮市のライトキューブ宇都宮で開催される。会長の入澤篤志氏は「今回は未来を見据え、若手医師が日本の胆道学を継承し、さらに発展させていくためのセッションに力を注いでいます」と語る。

日本の胆道学を次世代に受け継ぐために

今回の学術集会のテーマは、私の座右の銘「温故知新」「継往開来」をコンセプトに据え、テーマを「胆道学の未来へ一次世代への継承、創造、そして革新—」としました。日本の胆道学は諸先輩方のご尽力により、内視鏡治療も外科手術も診断学も、世界的に高い水準を誇ります。そんな日本の胆道学が今抱えている課題を解決しつつ、これから10年、20年先を見据えたディスカッションをすることが一番の目的です。

今回、未来の胆道学を担う若手会員で組織されている「若手活躍推進委員会」が企画・運営する4つのセッションを設けました。私は企画段階から一切口を出さず、全て若手にお任せしています。合併症への対応やAIを効果的に活用した臨床研究立案について若手が議論したり、手技の疑問点をベテランに聞いたり、若手医師と指導医がペアで教育法についてプレゼンしたりするなど、これまでにない斬新なプログラムが用意されています。

その上で学生からベテランまで全世代に楽しんでいただけるよう、セッションをバランスよく配置しました。演題は前回より200題ほど多い約630題が集まり、過去最多です。参加者は1300人規模を想定しています。

猪股医師による若手必聴「伝説の講演」

注目していただきたいプログラムが、会長特別企画「伝説の講演」です。岩手医科大学で長年活躍されている猪股正秋医師にご登壇いただき、内視鏡の逆行性胆管膵管造影(ERCP)における理論面についてお話いただきます。

猪股医師は手技を感覚ではなく、理論で裏付け、誰もが一定水準に到達できる手法を確立された方です。この10年ほどは表舞台に立たれる機会が少なく、若手医師の多くは論文でしか名前を知らない存在です。まさに伝説的な医師による貴重な講演を、若手にぜひ聴いていただきたいです。

もう一つの注目は「働き方改革」をテーマにしたパネルディスカッションです。医師の

勤務時間に制約が生まれる中、外科手術や内科医によるドレナージを軸にした急性胆嚢炎の診療体制を、医師のQOLも踏まえてどう見直すか、踏み込んだ議論をします。

宇都宮ならではの魅力や楽しみも満載

会場のライトキューブ宇都宮は、新幹線宇都宮駅直結です。受付は2階に設置、1階から4階までのすべてのフロアを使います。第一会場でのハンズオントレーニングのセッションは、事前登録していない方も自由に見学できる形で実施。本学術集会はリアルタイムのオンライン配信は行いませんが、後日オンデマンドで視聴できるようにします。

学会ポスターには、未来に向けた宇都宮の取り組みというイメージを重ね合わせ、3年前に開業して全国から大きな注目を集めている路面電車「ライトライン」をモチーフとして使いました。宇都宮はギョーザとともに最近では「カクテルの街」としても有名です。そこで当講座おすすめのお店を紹介する「ギョーザやカクテルバーのマップ」も配布予定です。ポスター展示会場では夕方からサプライズイベントも行いますので、ぜひ楽しみにしてください。



主なプログラム(予定)

- 会長特別企画：伝説の講演
『「乳頭は語る-Final」ERCPにおける『猪股分類』の本質をより良く理解して頂くために』
10月16日(金)11時10分～11時55分 猪股 正秋(猪股医院院長)
- 教育講演「胆道の隆起性病変に関する新知見」
10月17日(土)10時30分～11時10分 相島 慎一(九州大学)
- パネルディスカッション「働き方改革時代の急性胆嚢炎診療における内科・外科連携」
10月16日(金)14時～16時 堀口 明彦(藤田医科大学ばんなね病院) ※敬称略

会期:10月16日(金)・17日(土) 会場:ライトキューブ宇都宮(JR宇都宮駅東口直結)
運営事務局:日本コンベンションサービス
62jba@convention.co.jp <https://site2.convention.co.jp/62jba/>